

一茶ゆかりの里 四季の俳句会（平成二六年度七～九月分）

選者 高山俳壇 勝山久峰先生

特選 天老若の和して更けゆく盆踊り

岐阜県 高木康允

老若心一つにして年に一度の盆踊り大事な人の和である今は一寸淋しい感があるが廃れない様祈る。

特選 地親に宛て孫の書きたる避暑便り

群馬県 滝沢照香

家族の愛情がたっぷり含んで孫を見つめる好々爺が目に浮かぶ。

特選 人稻雀追へば群れ増し舞ひ戻る

岐阜県 塚田ヤエ子

人間と稻雀の知恵比べ群れ増して戻るが面白い醍醐味がある。

入選 風鈴の鈴の音なごむ昼下がり

長野市 北澤隼

入選 青田風一茶ゆかりの居をたずね

長野市 近藤藍

入選 予定なき日の少なきや零余子飯

群馬県 清水一静

入選 摄る景にいつも揺れるすすきかな

高山村 高野悠子

入選 雨上がり墨絵のような霧の山

群馬県 竹渕千恵子

入選 老人会皆童心や夏の旅

群馬県 竹渕てる子

入選 戦時苦を知らぬ子集ふ敗戦日

群馬県 田村洋子

入選 捨てかねし一句に執着秋の夜

愛知県 平野辰美